

第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展

1. 西ヨーロッパ世界の成立

(1). ゲルマン民族の大移動

- ▶ アルプス以北のヨーロッパ人先住民民族……ケルト人 (Celt)
現在はブルターニュ半島 (仏)、スコットランド・ウェールズ (英)、アイルランドに残るのみ。
↓
- ▶ ゲルマン人 (German) がバルト海沿岸地域からケルト人を圧迫しつつ西進
紀元前後には、ライン川・ドナウ川の北に勢力を広げローマ帝国と境を接する。
平和的にローマ帝国領内に移住するものもあり。
- ▶ 4世紀 東方からアジア系フン人 (Hun) が、ゲルマンの一派ゴート族を圧迫
→現在のハンガリーを中心に大帝国建設
- 375年** 西ゴート族、南下開始。翌年ドナウ渡河、ローマ帝国領内へ (=大移動の初め)
- 451年 カタラウスムの戦
フン王アッティラを、西ローマ帝国・西ゴート・フランク連合軍が破る。
→453アッティラ病死でフン帝国崩壊

▼ゲルマン諸族の動き

部族名	建国地	
西ゴート	イベリア半島	415 建国 →711 <u>ウマイヤ</u> 朝 (イスラム) により滅ぶ
東ゴート	イタリア	493 テオドリック大王により建国 →553 東ローマ (ユスティニアヌス帝) により滅ぶ
ヴァンダル	チュニジア (カルタゴ)	429 建国 455 ローマ一時占領 →534 東ローマ (ユスティニアヌス帝) により滅ぶ
アングロ=サクソン	ブリタニア	449~七王国時代 (= <u>ヘプターキー</u> 、Heptarchy) →829 <u>エグバート</u> 王の統一
ブルグンド	東南フランス	443 建国 →534 フランク王国により滅ぶ
ランゴバルド	イタリア北部	568 建国 →774 フランク王カールにより滅ぶ
フランク	フランス北部	481 メロヴィング家クローヴィスにより建国

▼イタリア半島の情勢

- 395 ローマ帝国、東西分裂
- 410 西ゴート王アラルリック、一時ローマ占領
- 476** ゲルマン人傭兵隊長オドアケル、西ローマ帝国を滅ぼしイタリア支配 (~493)
- 493 東ゴート王国 (~553)
- 553 東ローマ帝国、ユスティニアヌス帝がイタリア奪回 (~568)
- 568 北イタリアに、ランゴバルド王国 (~774)

(2). ローマ=カトリック教会の成長

- ▶ キリスト教の五本山
ローマ、コンスタンティノープル、アンティオキア、アレクサンドリア、イェルサレム
この3カ所はイスラム支配下に
 - ・コンスタンティノープル教会……東ローマ皇帝が首長 (皇帝教皇主義、Caesaropapism)
 - ・ローマ教会……その首長がローマ教皇 (Pope、使徒ペテロの後継者を自認)
西ローマ帝国滅亡後、新たな政治的後見人が必要
- ▶ 修道院運動
529 ベネディクト修道会、モンテ・カシノ修道院設立
=修道院のはじめ (同年、ギリシアでプラトン設立のアカデメイア閉鎖)
ベネディクトゥス会則 = 清貧・貞潔・服従
「祈り、働け」 (→古典古代の労働観の転換)

▶ 聖像問題

ローマ教皇 グレゴリウス1世 (590～604) ……ゲルマン人への布教に聖像を利用



ビザンツ皇帝 レオン3世 (717～741) ……726 聖像禁止令

本来、キリスト教も偶像崇拜禁止 (←イスラムからの批判)

→東西教会の対立激化。ローマ教会とフランク王国との接近

(3). フランク王国の発展

※フランク族が強大化できた理由

移動距離短く、生活環境があまり変化しない。

ローマ帝国の辺縁部だったためローマ市民の人口少ない。

481 メロヴィング家の クローヴィス により建国 (メロヴィング朝、～751)

496 クローヴィス、アリウス派からアタナシウス派に改宗

534 ブルグンド王国を滅ぼす

8世紀 メロヴィング家衰退 → 宮宰 (マヨル・ドムス (= 塚の頭の長) の カロリング 家が実権握る

▶ 宮宰 カール・マルテル

732 トゥール・ボワティエ間 の戦
ウマイヤ朝の軍を撃退、キリスト教世界防衛

▶ ピピン (カール=マルテルの子)

751 メロヴィング家を倒しフランク王即位、カロリング 朝 (～987) 創始
→ローマ教皇もこれを承認

756 ラヴェンナ地方を教皇に寄進 (= 教皇領 の始まり)

(4). カール大帝

(位 768-814、独 Karl der Große, 仏 Charlemagne シャルルマーニュ、ピピンの子)

<外> ランゴバルド王国を滅ぼし、イタリア王を兼ねる
ドイツのザクセン族を服従させ、ドイツ諸族統一
アヴァール 人 (モンゴル系遊牧民) を撃退
イベリア遠征、イスラム教徒 (後ウマイヤ朝) を討つ

<内> 全国を州に分け、州の長官 (伯) に統治させ、巡察使を派遣し伯を監督する

<文化> “カロリング・ルネサンス”
アーヘンの宮廷に学僧 アルクイン (英) らを招き、ラテン語による文芸復興

▶ 800 年 12/25 カール、教皇 レオ3世 から「西ローマ皇帝」の帝冠を授かる

※カール戴冠の意義

①. 政治的…西ヨーロッパ世界がビザンツ帝国から独立した独自の政治的中心を持つ

②. 文化的… ヘレニズム (=ギリシア文化) ・ ヘブライズム (=キリスト教) に
ゲルマン的要素を加えた西ヨーロッパ文化圏成立

③. 宗教的…ローマ教会が、コンスタンティノーブル教会から独立
1054 東西教会が完全に分裂 (互いに相手を破門)



東 ギリシア正教会 (Greek Orthodox Church)

西 ローマ・カトリック教会 (Roman Catholic Church)

(5). フランク王国の分裂

- ▶ 原因……本来は中央からの派遣官僚である伯が、各部族長である公とともに封建諸侯化

843 ヴェルダン 条約 →カロリング家が領土を3分割して分家相続
870 メルセン 条約 →現在のドイツ・フランス・イタリアのもとに

<中部フランク=イタリア>

875 カロリング朝断絶……以後、諸侯分立
神聖ローマ帝国の介入、イスラムやヴァイキングの侵入で混乱

<西フランク=フランス>

987 カロリング朝断絶
パリ伯 ユーグ・カペー、王に即位 (カペー 朝、～1328)
王権弱く諸侯割拠

<東フランク=ドイツ>

911 カロリング朝断絶し選挙王制に
フランケン家コンラート1世、ザクセン家ハインリヒ1世

- ・ オットー1世 (大帝、936～973、ザクセン家第2代)

955 レヒフェルトの戦い……ウラル語系 マジャール 人 (現ハンガリー) を討つ

961 イタリア遠征しローマ教皇ヨハネス12世を助ける。

↓

962 教皇からローマ帝冠を授かる = 神聖ローマ帝国 成立

(Heiliges Römisches Reich Deutscher Nation、～1806)

※ 歴代皇帝は「イタリア政策＝ローマ帝国の復興」のテーマに熱中し
ドイツ本国をおろそかにしたため、諸侯分立・帝権弱体

(6). ヴァイキング (=入江の民) の侵入 (第2次民族大移動)

スカンジナビア半島・ユトランド半島の北方ゲルマン人 (まだ非キリスト教徒だった)
ノルマン人、スウェード人、デーン人
それぞれ王国を形成 (ノルウェー、スウェーデン、デンマーク)

デンマーク王カヌートの北海帝国 (1016-42 ノルウェー、イングランドも支配)

1397～ カルマル 同盟 ……デンマーク女王 マルグレーテ
ノルウェー、スウェーデン、デンマークの同君連合

1523 スウェーデン独立後、1814年までデンマーク・ノルウェー連合

- ▶ ロシア進出

862 ノヴゴロド 国……スウェード人ルーシ族の族長 リューリク が建国

882 キエフ 公国……南下して次第にスラヴ人と同化

- ▶ フランス進出

911 ノルマン人首領 ロロ、西フランク王より ノルマンディ 公に封ぜらる
→ノルマンディー公国 (=フランク王国内の公爵領) 成立

- ▶ イングランド王国

829 エグバート 王による七王国統一 (アングロ=サクソン 朝)

9c. デーン人の侵攻 ⇨英 アルフレッド 大王 (871～899) がこれを撃退

1016 デーン王 カヌート、イングランド支配 (デーン朝、～1042)

1042 アングロ=サクソン王朝の復活

1066年 ノルマン・コンクエスト (Norman Conquest)

ノルマンディ公ウイリアムによるイングランドを征服

→ ノルマン 朝 (～1154) ウィリアム1世 (征服王、～1087)

征服王朝のため、他の西欧諸国と異なり、中世から王権強い

※ノルマン=フランス語が公用語とされ、古代英語は下層民に残る。

- ▶ シチリア・南イタリア進出
南イタリアはビザンツ帝国領、シチリアはイスラム支配下にあった。
- ⇔ 11世紀、ノルマンディ公国出身の傭兵たちが活動開始。
1055 以後、ノルマン人のロベール・ギスカルが南イタリア征服
1060 ロベールの弟ロジェール（ルジューロ）1世、シチリア侵入
→ 1071 ローマ教皇から「十字軍」と認定されシチリア伯となる。
- 1130 両シチリア王国成立……ルジューロ2世（1世の子）

(7). 封建社会の成立

<背景> イスラム勢力の地中海支配 → 商業・都市の衰退、自給自足の農業社会への移行
民族大移動・外敵の侵入 → 遠方の王よりも現地の有力者に頼る傾向

<封建的主従関係> 主君（封土授与）⇔ 臣下（忠誠・軍役の義務）

皇帝・国王、諸侯・騎士ら貴族階級の間にも幾層にも成立した主従契約関係
双務契約、一人が複数の主君を持つことも可（日本などと異なる点）
由来…… 恩貸地制度（ローマ末期）、従土制度（古ゲルマン）

<経済社会> 荘園・農奴制、自給自足の現物経済

荘園……①. 領主直営地、②. 農民保有地、③. 共同利用地

農奴……①における賦役、②からの貢納、教会への十分の一税
領主裁判権に服従、移転の自由なし、死亡税、結婚税

※ 不輸不入権（インムニテート、Immunität）

領主は国王の役人が荘園に立ち入ったり課税したりするのを拒否できる

(8). 教会の権威

- ▶ ローマ・カトリック教会の階層制（ヒエラルキア）

教皇を頂点に、大司教・司教、修道院長など聖職者の序列を定めピラミッド型組織に
→ 高位の聖職者は、国王・皇帝から領地を寄進され大領主となる

特に神聖ローマ帝国では高位聖職者を帝国行政に組み込む「帝国教会政策」をとっていた

→ 教会の世俗化、聖職売買などの弊害

↓

- ▶ （聖職）叙任権 闘争

クリュニー修道院（910 設立）を中心とする教会刷新運動

教皇 グレゴリウス7世（1073-85、俗名ヒルデブランド、クリュニー修道院出身）

聖職叙任権を教会に取り戻す

1076 反発した皇帝 ハインリヒ4世（1056-1106）を破門

1077 カノッサの屈辱……ハインリヒ、教皇に謝罪

1122 ヴォルムス協約……教皇が聖職叙任権を確保

（ただし皇帝もこれに対する世俗の権限=封土授与を確保）

その後、十字軍遠征決議など教会の政治における権威高まる

- ▶ 教皇権の全盛期……教皇 インノケンティウス3世（1198-1216）
イギリス王を屈服させる。一方、第4回十字軍は道を踏み外す

- ▶ その他の修道院活動

1098 シトー派修道会

13c. フランチェスコ修道会、ドミニコ修道会などの托鉢修道会
（財産を持たず、善意の施しによって生活）

2. 東ヨーロッパ世界の成立

(1). ビザンツ帝国 (東ローマ帝国)

ゲルマン民族大移動の影響を受けず、商業・貨幣経済存続、地中海貿易もさかん
住民はヘレニズム時代以来のギリシア人が多数

→ 公用語=ギリシア語

国名は首都 コンスタンティノープル のギリシア語旧名ビザンティオンから
ローマ帝国末期以来の専制君主制

ギリシア正教会・・・皇帝が最高指導者 (皇帝教皇主義、Caesaropapism)

▶ 歴史

ユスティニアヌス帝 (527-65)・・・初期の全盛期

534 ヴァンダル王国、553 東ゴート王国を滅ぼしイタリア・北アフリカ支配

ローマ旧領をほぼ回復 → 帝の死後それらを失う

「ローマ法大全」編纂・・・法学者 トリボニアヌス

中国から蚕卵を入手、養蚕・絹織物業をさかんに

文化・・・ビザンツ様式の ハギア・ソフィア 聖堂 (ドームが特徴)

ヘラクレイオス 1 世 (610-41、ヘラクレイオス朝初代)

軍管区制 (テマ制)

軍管区の司令官に軍事・行政権を与える。

管内の農民に土地を与えるかわりに軍役を課す (屯田兵制)

レオン 3 世 (717-41、イサウロス朝初代)・・・726 聖像禁止令 (前述)

マケドニア朝 (867-1057)・・・11c. プロノイア制 (=封建化)

アレクシオス 1 世 (1081-1118、コムネノス朝初代)・・・ローマ教会に十字軍を要請

1204 第 4 回十字軍の攻撃で一時滅亡 (~ 1261 復活)

十字軍がコンスタンティノープルに ラテン帝国 を建国

ビザンツ勢力はこれに対抗し ニケーア帝国 建国

1453 年 オスマン・トルコ帝国 によって滅ぼされる。

▶ 文化的意義

・スラヴ人を開化しギリシア正教・ビザンツ文化圏に組み込む

・古代ギリシアの学芸を受け継ぎ、イタリア・ルネサンスに影響を与える

(2). スラヴ人その他の東欧民族

東スラヴ・・・ロシア・ウクライナなど

西スラヴ・・・ポーランド、チェコなど

南スラヴ・・・セルビア、クロアチア、スロヴェニア、ブルガリアなど

ロマンス語系 (ラテン系)・・・ルーマニア

バルト語系 (インド・ヨーロッパ語族)・・・リトアニア、ラトヴィア

ウラル語系 (ウラル・アルタイ語族)

・・・エストニア、フィンランド (フィン人)、ハンガリー (マジャール人)

<ロシア>

ヴァイキングのキエフ公国がスラヴ化

ウラディミール 1 世 (980-1015)・・・ギリシア正教会に改宗、ビザンツ皇女と結婚

13c. モンゴル人の キプチャク・ハン国 による征服 (タタールのくびき)

1480 モスクワ大公国 独立

イヴァン 3 世 (1462-1505)・・・“ツァーリ” と称する

ビザンツ最後の皇帝の姪ソフィアと結婚、ビザンツ後継者自認

イヴァン 4 世 (1533-84、雷帝)・・・農奴制を強化し強国に

<ポーランド>

966 ローマ・カトリックに改宗
カジミエシュ大王 (1333-70) ……クラクフ大学成立(1364)

ドイツ騎士団の東方植民 (十字軍と並行しての西ヨーロッパ世界の拡大) に対抗

1386 ヤゲウォ 朝 (~ 1572) リトアニア=ポーランド王国成立
リトアニア (バルト語系) との同君連合国家
ポーランド女王とリトアニア大公の結婚による
→ 15世紀には南東のウクライナまで支配する東欧一の強国となる

<ベーメン (チェック 人) >

10c. ベーメン王国建国 (チェック人のプシェミスル朝)

11c. ローマ・カトリックに改宗
ドイツ人の東方植民 → 神聖ローマ帝国に編入される

1306 プシェミスル朝断絶 以後、ベーメン王位はドイツ人の手に
(ルクセンブルク家、ハプスブルク家)

→ フスの宗教改革運動は、ドイツ人・カトリック支配に対する民族運動

<南スラヴ (=ユーゴスラヴ) >

・ セルビア 人……ビザンツ帝国に服属、ギリシア正教に改宗

12c. セルビア王国 (1168-1389) 独立
→ 14c. オスマン・トルコ帝国の支配下に

・ クロアチア 人、スロヴェニア人……フランク王国の影響でローマ・カトリックに改宗

→ 11c. ハンガリー王国 → 14c. オスマン・トルコ
→ 17c. オーストリア・ハプスブルク家領

<その他の東欧非スラヴ諸族>

・ ブルガリア 人 (もとはアジア系遊牧民)

7c. バルカン半島南東部に建国 (第1次ブルガリア王国)
→スラヴ化、ギリシア正教改宗 →ビザンツ帝国に併合

12c. 独立 (第2次ブルガリア王国)
→ 14c. オスマン・トルコ帝国の支配下に

・ マジャール 人 (ウラル語族、5世紀頃ウラル山脈付近から西進開始)

10c.末 ハンガリー王国建国 (パンノニア=ハンガリー盆地一帯)
ローマ・カトリックに改宗
→ 14c. オスマン・トルコ帝国の支配下に
→ 17c. オーストリア・ハプスブルク家支配下でも自治権

※名前を姓名の順で表記する

・ ルーマニア人

ローマ帝国時代に、ドナウ川の北にラテン系の人々が移住
民族・文化的にはスラヴ化しているが、言語区分はロマンス語 (ラテン) 系